

目指す学校像	人生 100 年時代の土台づくりとして「世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある子」を育成するためにチームで支援する学校
重点目標	1 教育DX「学びの個別最適化」と探究化の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールとしての成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 誰もが居心地のよい (Well-Being) 学校をつくる授業改善と働き方改革

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和5年3月2日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○R3 全国学力・学習状況調査は国語、算数とも全国、市平均と比べ、良好な結果である。 ○国語の解答時間が足りないと感じた子は 35%もいた。「文章の構成」「要旨をまとめる」「文法」の解答率が市平均と比較して低い。 ○市の学習状況調査において各教科の「好き」に関する肯定的な回答は理科以外の国、社、算、GSにおいて市平均と比較して低い。 ○ギガ端末を使って調べたことを整理し、まとめ、プレゼンすることに意欲的な児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から 50 文字程度の文章を素早く読み取る力に課題がある。 ○テスト等はある程度できるが、関心が高まっておらず、学習する意義や、達成感、充実感を味わえるようにし、学びの楽しさを実感させることが課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる探究型授業の実現	①スタディサプリ、ドリルパークを活用した学習相談を実施し、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査の結果を基に、読解力に関する状況を分析し、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで効果的な手立てを設定し、学校全体で児童の読解力を向上させる。	①国語、算数について全児童に対して 9 月末までに、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定することができたか。また、市の学習状況調査で読解力に関する問題について、正答率を各学年 70%以上、もしくは市の平均以上とすることが出来たか。	①学習相談は 92%の学級で実施。さらに 2 回以上実施した学級は 75%であった。ただし、個人ごとのログを蓄積させる必要があるため、9月末までの実施は難しかった。 ②夏季休業中に全職員が結果の分析を行い、2学期以降の授業改善について各自が設定することができた。しかし、市学調での読解力に関する正答率は市平均に届かなかった。	B	・スタディサプリ等を活用した学習に取り組みさせているため、定期的に取り組状況を確認し、必要に応じてフォローアップをしていく必要がある。 ・全職員で分析等を行ったが、各自で設定した授業改善の成果や課題の「見える化」が不十分だった。次年度は実践の共有まで確実にやっていく。	・スタディサプリやドリルパーク等のデジタル教材だけでは基礎基本が定着しないのではないだろうか。ドリルの復活を望む声も多くある。 ・デジタル教材の活用は、個人の定着具合に応じて自分のペースで取り組むことができるなどのメリットがある。活用方法をさらに工夫したい。 ・デジタル教材のメリット・デメリット、使い方等について、保護者にも分かりやすい周知があるとよい。 ・Pepper くんを活用など、体験的な学習は来年度以降もぜひ取り入れたい。
2	(現状) ○R3 全国学力・学習状況調査においては、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は全国・県平均を上回った。 ○学校評価「いじめや悩みについて適切に対応している」の質問に肯定的な回答は、職員が 100%に対し、保護者は 77%に留まり 15%が「わからない」と回答した。 (課題) ・職員による施設、設備の安全点検は定期的に行われているが、分担場所以外の状況は分からないため、学校全体を意識した点検にすることが課題である。また、児童自ら危険を予測したり、回避したりする力を育むことも課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成	①保護者に向けて懇談会や本校 HP、各種発信物等を通していじめに関するメッセージを発信し、いじめ方針や対応を周知する ②生徒指導・教育相談に係る校内委員会で ICT を活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校評価アンケートで保護者、児童のいじめに関する項目が 80%以上となったか。 ②教職員アンケートでいじめや長欠に関する校内委員会で組織的な対応で、肯定的な回答が 80%以上となったか。	①いじめに対する適切な対応についての項目における肯定的な回答は、保護者 82.4%、児童 88.5%とともに目標値以上となった。 ②教職員アンケートにおけるいじめや長欠に関する項目についての肯定的な回答は 100%であった。学年や各種委員会を中心に早期発見、早期対応を確実に行うことができた。	A	・懇談会や全校集会の際に、本校のいじめに対する対応について共通した内容を伝える等、周知徹底を図ったことで、昨年度よりも肯定的な回答が高くなった。次年度は、今年度と同様の取組を行いつつ、さらに多くの保護者に取組を周知していく。	
3	(現状) ○コミュニティ・スクール4年目。第3 (成長進行) ステージに差し掛かった段階だが、SSN は昨年度末に再始動したばかりである。 ○昨年度からの学校運営協議会の熟議で、目指す児童像の実現のため、地域の教育資源である「東大宮音頭」を教育課程に位置付けたらどうか、という意見が出ている。 (課題) ○次年度以降、第4 (成熟) ステージを目指していく段階だが、SSN が始まったばかりであり、昨年度のコミュニティ・スクールの認知度 (保護者) は 73%に留まっている。	・コミュニティ・スクール「成熟ステージ」に向けてのプラン策定と行動 ・目指す児童像を地域全体で共有するための ICT 活用	①学校地域連携コーディネーターの調整により CS 熟議による「東大宮音頭プロジェクト」を実現する。(教育課程、特別活動、学校行事) ②学校地域連携コーディネーターの調整により本校 HP や通信物等で再構築された SSN が行った事業を発信し、地域、家庭と共有する。	①運動会後の保護者、職員アンケートで関連項目の肯定的評価 80%以上であったか。 ②SSN による学校支援活動が新規に行われたか。保護者アンケートで SSN、CS の認知度を含め、肯定的評価が 80%以上となったか。市学調で地域との関わり項目が昨年度より高まったか。	①運動会実施後のアンケートにおける肯定的な回答の割合は、「児童の演目」98%、「学校の運営」96%、「運動会全体の進行」99%と高い数値となった。 ②SSN の 2 つの団体が学校の環境整備事業を新規に行った。CS の認知度は昨年度の 76%から 82.4%と数値が向上した。また、SSN の認知度は 73.6%で目標をほぼ達成した。	A	・今年度運動会の実施時間が予定よりも大幅にずれてしまった。計画の際に、実態に即し正確な情報提供を心掛ける。 ・学校 HP を活用して SSN の活動の周知を図る。	
4	(現状) ○高学年での一部教科担任制実施により、より深い教材研究を行うことが出来ている。 ○少人数の教職員集団のため、一人当たりの雑務が多い。 (課題) ○ICT の活用や探究的な学びについて、教員間で取組の差が見られる。 ○教材研究や児童と向き合う時間確保が難しい。	・授業改善と、そのための教材研究や子どもたちと向き合う時間を確保する働き方改革	①教科担任制での専門的な指導や、学びの楽しさを実感できる ICT を活用した探究的な学びの授業を学期に 1 回以上公開し、管理職の指導を受ける ②職員会議数の減少、一部教科担任制の導入、集金業務のキャッシュレス化 (教材費、学年費の口座振替) 等働き方改革を推進する。	①すべての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的に ICT を活用する状況になったか。 ②学校評価の職員による「働き方改革」に関する項目で肯定的な回答が 8 割以上となっているか。	①教職員「GIGA スクール構想の推進」では 100%、「AL 型授業の実践」では、85.7%、「AL 型授業に対する意識向上」90.5%と日常的に ICT を活用した取組が実践された。 ②「働き方改革を意識した働き方」「学校として働き方改革が推進されている」の両項目において 100%の肯定的回答となっている。	A	・ICT の活用は進んでいるが、教員の技能面での差もあった。活用研修等を定期的開催し、教職員の資質向上を図る。 ・多くの働き方改革を進めてきたが、まだ業務に負担を感じている職員がいる。さらに検討していく。	

